



SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

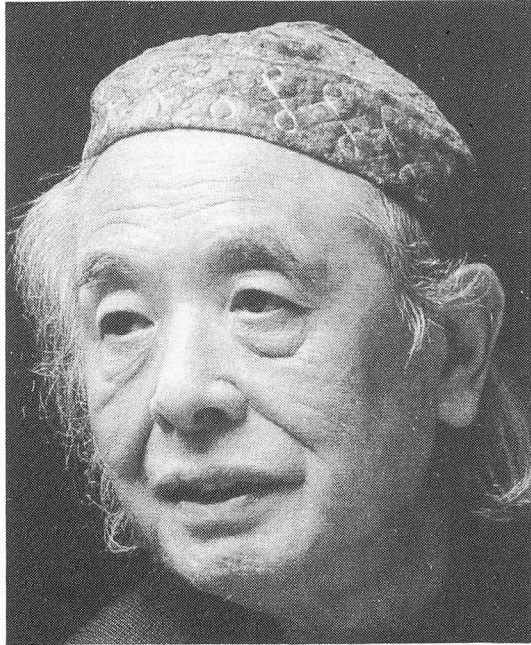
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

鷹山宇一先生 ご逝去



七戸町立鷹山宇一記念美術館
名譽館長鷹山宇一先生は
平成十年十月二十五日
午後二時三十分
逝去されました。

ここに謹んで会員の皆様にお知らせ申し上げます。

十一月四日から十一月十四日まで当美術館に於いて献花と記帳をお受けいたします。この間美術館は無料開館となります。

鷹山宇一記念美術館友の会

平成十年五月二日
東京国際美術館において開催された鷹山宇一卒寿展での先生のご挨拶

本日は、ご繁忙のなか、私の卒寿展祝会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。

絵描きになりたいと、この道を歩み始めて七十五年の歳月が流れました。作品一点一点を、今見入ると、当時の思いが走馬燈のように駆け巡って参ります。

若い頃の、拙く稚ない未熟な作品、酔った勢いで描いた不謹慎な作品と、この歳になって初めて判る力量がありますが、このような作品を長い年月にわたって、お預かり下さいました方々のお陰で、この卒寿展が開催できるとは、只々感謝いたすのみでございます。

今、来し方を振り返りますと、消し去りたい恥ずかしいことばかりであります。たった一つ私には自負できる「絵描き魂」がございます。それは、自分ほど、デッサンを勉強した者はいないだろう、と云い切れることでもあります。

若い時から、売り絵作家だった私は、自分の研鑽の場として、五十代までの間、何千枚も

のデッサンを描き続けて参りました。仕事の合間をみては、写生をしたり素描をしたりして、昆虫も植物も本物を見て観察する訓練ができたお陰でしようか、私は花と蝶を描く作家になりました。

そして、有り難いことに、今もなおきちんと蝶を描かなければ、一つの作品を作り上げていくことができません。若い時の蓄えが、血となり肉となって、九十歳の私の仕事を支えてくれているのです。

吉井勇が「長生きも芸の内」と云いましたが、天賦の才を持った友が早世して行ったなか、長寿を得られた私は、郷里で美術館を造ってもらえたり、今年の正月には地元の新聞社より、栄えある賞を頂戴したりして、晩年になって大きな喜びが押し寄せて参りました。

そして、また、人生の締めくくりに、このように大勢の皆様が集まって戴き、現役作家として栄誉ある卒寿展を開催出来るなど、私は本当に仕合わせな人生を送れたと感無量でございます。

私が、お別れの時には、ご多用な皆様方にご迷惑・足労をおかけすることは不本意であり、欠礼のご無礼を、今から申し伝えたく存じます。それよりも、ここにこうして、本日、元氣なうちにお世話になった皆様にご挨拶が出来ましたことは、

望外の喜びでございます。願わくば、今日の私の心情が如何なるばかりか、お汲み取り戴ける日があれば、これに優る嬉しさはございません。

絵筆一本の正々堂々の人生を歩ませて戴き、本当に有り難うございました。

皆様方の上にも、大きな幸せが訪れますよう、心より祈念いたしております。

鷹山 宇一



卒寿展の茶話会においてご挨拶される鷹山先生